

平成 30 年 3 月 9 日掲載

<子供たちに税の使途について考える機会を提供した好事例>

租税教育ワークショップ「未来の税金を考える」

麻布法人会（東京）

<活動対象> 小学校 6 年生

<活動の概要>

- ・「税を通して社会を知る、考えること」をテーマに、租税教育とワークショップを開催。子供たちが自ら考え発表することで、税が自分たちに関わるものと認識して納税者意識を醸成することが目的。
- ・1時限目の租税教室で主に税について学んだ内容を基に、続く2時限目で「未来の税金を考える」をテーマにワークショップを実施。税金のはなしパンフレットや新聞切り抜き、講師の話すトピックや子供たちからの質問を基に話し合い、10年後の日本で「税金を使って欲しいこと」、「税金を使って欲しくないこと」についてその理由と合わせて子供たちが発表。
- ・これまでの教えるだけの一方向の租税教育から、講師・スタッフと子供たちが話し合い発表する双方向型の租税教育を実現。

<参考資料>

租税教室資料概要

<摘要>

特になし

租税教育ワークショップ

＜公益社団法人麻布法人会サンエー・クラブの租税教育＞

弊会では、2010年度より租税教育を開催している。

以来、小学生と中学生に毎年行っているが、伝えるということでの、認知という一定の役割は果たしているものの、興味や当事者意識にどうつなげていくかについて、租税教育PJにて協議を重ね、2014年度より、学校側と相談し、税を通して社会を知っていく、税を通して皆で社会を考えてくことをテーマに租税教育授業に加え、租税教育ワークショップを開催した。



＜ワンウェイ授業による租税知識のインプット＞

-ワークショップの目的-

- ・税金について、知ることと、自分たちに関わるものとしての意識を醸成。
- ・税金の納め方とともにその使われ方、そして自分自身の生活の中で、使われたくないもの、もっと使って欲しいものを、納税者意識で考える。



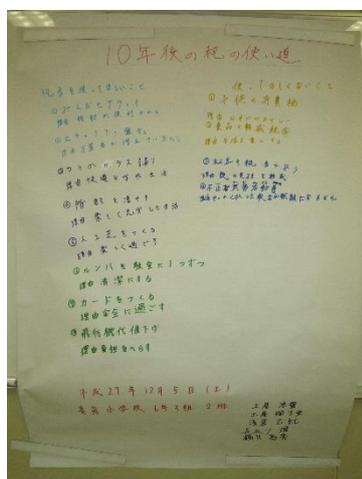
＜グループに分かれて子どもたちが考える＞

- ・ワンウェイ教育からツウウェイ教育へ 双方向型租税教育
- ・子どもたちが自ら考え発表することで、税に関する納税者意識、税に関心、考える力を醸成する



<大人から子どもへおなじ納税者という立場に立って、納税意識が醸成されていく>

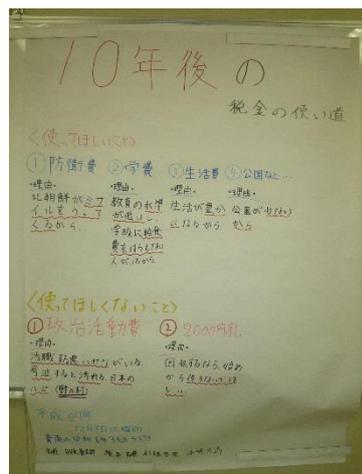
-子どもたちの発表から-



税金を使って欲しいこと：
セキュリティ強化
理由：不審者が増えているから

税金を使って欲しくないこと：
子ども（にとって）の消費税
理由：（子どもにとって）公平かあやしい。

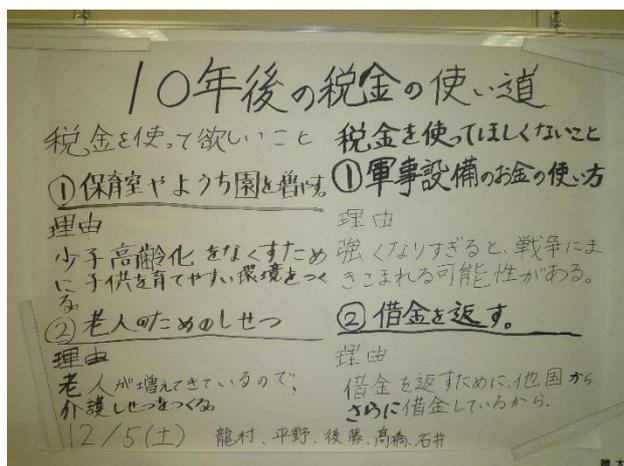
<セキュリティの強化など提案数の多いグループ>



税金を使って欲しいこと：防衛費
理由：北朝鮮がミサイルを撃ってくるから。

税金を使って欲しくないこと：
政治活動費
理由：汚職する悪い奴がいる。号泣すると汚れる。日本のハジ。

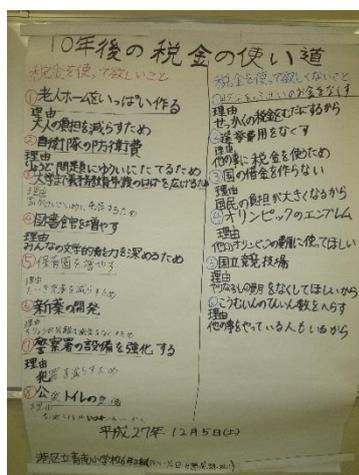
<防衛費増強グループ>



税金を使って欲しいこと：保育室や幼稚園を増やす。
理由：少子高齢化をなくすために子どもを育てやすい環境をつくる。

税金を使って欲しくないこと：軍事設備のお金の使い方
理由：強くなりすぎると、戦争に巻き込まれる可能性があるため。

< 軍事費に税金を使って欲しくないグループ >



税金を使って欲しいこと：新薬の開発
理由：治療が困難な病気をなくすため。

税金を使って欲しくないこと：政治のふせいのお金をなくす。
理由：せっかくの税金を無駄にするから。

< 新薬の開発等アイデアグループ >

子どもたちは、その時々々の社会状況に、実はとても敏感であり、時代の流れに沿った税の使い道についても、フレキシブルに考えられる柔軟性を持っていると感心する。社会全体に配慮する、やさしさや、格差に対する意識も非常に敏感であり、既得権益やしがらみに、さらされていないピュアな人間そのものであり、共同体の心を感じる。

大人に成り、様々な経験を経て、先入観や思い込み、好き嫌い、損得、エゴ、利己が醸成され、様々な処世術が体の髓に染み込み、蓄積された曇り眼からは、見えないものが増え、見えないものが何かすら、わからなくなったこと。自分たちは、子どもたちに伝えに行く立場から、子どもたちから、何かを気付かされる。様々な目線で社会がつくられることで未来は開かれていくことを痛感する。

税は、目的ではない、世代を超えてつながるため、未来をつくる、ツールである。

私たちは、租税教育を通じて、子どもたちと社会と未来について、
多様性と考え方の方向性を知る。

税は、あらゆる世代にとって大切なツールであると感じました。